

「関東大震災講演会と追悼碑巡り」報告

日本地震工学会では、歴史的な大地震に関する被害や惨劇の発生状況についての知識を深めるため、講演会「現代東京に生きる関東大震災」と見学会「震災慰霊碑巡り」を開催しました。講演会と見学会の概要は以下の通りです。

- ・日時:平成 23 年 11 月 4 日(金) 13:30～16:45
- ・場所:国際ファッションセンタービル 10 階 KFC Hall ROOM 112(東京都墨田区横網 1-6-1)

①講演会「現代東京に生きる関東大震災」の概要

講師に小堀鐸二研究所の副所長である武村雅之氏を迎え、関東大震災の被害状況とそこから得られた後世に伝えるべき教訓についての講演会を開催しました。巨大地震が多発する日本において、将来の大地震に備えるためには過去の大地震時に何が起こったのかを知る必要があるという武村氏の信念のもと、大正 12 年 9 月 1 日に発生した関東大震災に関する、震災の記録を詳細に講義いただきました。人が住みやすい場所は平らで水の便がよいが、地盤が悪いために耐震設計の必要性があること、火災の延焼から免れるには都市大改造の必要性があったこと、また被服廠跡での惨劇を今後の教訓としなければならないことなど、大変興味深い話しを伺えました。17名の受講生は講師の話しに耳を傾け、会場に隣接する被災地にて起こった惨劇について熱心に質問するなど、参加者には満足いただける講演会となりました。

②見学会「震災慰霊碑巡り」の概要

講演会に引き続き、講師の武村先生の案内により会場に隣接している横網町公園内の東京都慰霊堂から復興記念館、旧安田庭園、さらに回向院の順に見学会を行いました。公園内では当時の災害を描いた絵画や残された震災被害資料の展示を見学し、さらに回向院では阿弥陀如来像を拝観しながら、時折、講師に質問するなど見学者には充実した慰霊碑巡りにご参加いただきました。



写真 1. 復興記念館の見学



写真 2. 東京都慰霊堂の見学